

畜産の
「見える化」で、
日本の食を
もっと豊かに。

FUJITSU

環境データを24時間計測・蓄積して人の五感を超えた最適な生産方法を導く

日本の畜産強化には、ICTを活用し、家畜のデータを「見える化」することが有効だと富士通は考えています。例えば、牛などの家畜にセンサーを取り付けて一頭ごとの状態をセンシングし、無線ネットワークで収集。遠隔地で放牧管理ができ、蓄積したデータを行動分析や健康管理に役立てようとしています。今、富士通は、現場の畜産関係者の方々と共同で取り組み、低コストで簡易なセンシング機器の開発・改良や生産者のノウハウを活かしたシステムづくりを進め、業種業態の枠を超えたセンシング技術の適用範囲をひろげています。

富士通の「分野を越えたセンシング技術」

※この画像は、広告上の演出によるものです。